

2017年度 自己点検・評価【神学研究科】

C票

<目標、行動計画>進捗確認シート

提出日：2018年 2月22日

2021年度に向けた教育研究目標

責任者	神学研究科委員長	作成部局	神学研究科
-----	----------	------	-------

【A票：教育研究目標1】

(タイトル)
神学における専門的な知識を修得し、思索を深めることのできる人材の育成

(狙い内容)
より高度な専門知識の修得を目指し、幅広くキリスト教に関する知見を具え、かつ思索できる人材を育成する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

4つの研究分野において開講しているすべての「特殊講義」(前期課程)に「特殊研究」(後期課程)を合併開講することで、講義内容を高度化する。後期課程学生と受講することで、主に、専門的知識の修得を図り、思索を深めるインセンティブを与える。

2. 達成度評価

評価指標	4つの研究分野において開講しているすべての「特殊講義」(前期課程)に「特殊研究」(後期課程)を合併開講することで、講義内容を高度化する。後期課程学生と受講することで、主に、専門的知識の修得を図り、思索を深めるインセンティブを与える。	評価尺度	A：4分野開講 B：3分野開講 C：2分野開講 D：検討
------	--	------	---------------------------------------

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時点		C 2分野を合併開講	C 前年度同様、2分野を合併開講	C 制度構築	B 合併開講実施 (3分野)	A ・合併開講の実施 (4分野) ・効果の測定と検証 の実施	A 効果の測定と検証 の実施	A 効果の測定と検証 の実施
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度： A～D	C	C	実績	B			
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	2分野を合併開講	前年度同様、2分野を合併開講		3分野を合併開講			

【2017年度の進捗状況について】

2018年度に4分野開講実施すべく、神学研究科委員会にて検討。併せて、大学院教育にかかる課題を精査しつつ検討を行っている。

2017年度 of 取組み状況の確認

2017年度 of 取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい・いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ 行動計画①の評価尺度はステップを示しただけで、適正な順序尺度になっていないように思われます。(A)
- ・ 高度な専門知識を有する人材の育成に向けて、合併開講の実施は適切ですが、他の行動計画の立案も期待されます。(B)
- ・ 会議承認は進んだようですので、この教育研究目標についてここで一度再検討が行われることが期待されます。(D)
- ・ 合併開講については、修士と博士で、それぞれの課程に適した授業内容の整理が望まれます。(E)
- ・ 順調に進捗しており、評価できます。(F)
- ・ MとDの合併開講をするということはすでに達成されたようですので、今後はその合併開講による成果やその内容について目標を設定することが期待されます。(H)
- ・ 順調に取組が進められていることが窺えます。(I)

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)
多様なキリスト教思想の知を身につけた人材の育成

(狙い内容)
世界で展開する様々なキリスト教思想を学び、多元化社会において深い見識を養い、具体的な世界の問題を発見し、キリスト教的な立場から取り組み、解決できる人材を育成する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

「キリスト教思想特殊講義」において、多彩な講師によってグローバルなキリスト教思想を扱う授業を実施する。

2. 達成度評価

評価指標	シラバスへの明記状況	評価尺度	A: シラバス作成(確定) B: シラバス作成(原案確定・継続検討実施) C: シラバス記載内容検討 D: 未実施
------	------------	------	--

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時点	未実施	D	D	C	B	A	A	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	D	D	A				
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	未実施	科目担当者検討中のため、シラバス内容検討には至っていない。	実績 2018年度担当者を決定しシラバスを作成した。				

【2017年度の進捗状況について】

科目担当者(案)を研究科委員会に提案予定。2018年度の開講を予定していることから、担当者(案)作成と並行して、シラバス内容の検討を行っている。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ **はい**・いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・「～人材の育成」という目標に対して、「シラバスへの明記状況」という評価指標は適切でないように思われます。
- ・行動計画①の評価尺度もステップを示しているだけで、適正な順序尺度になっていません。(A)
- ・行動計画として新規開講科目の検討は適切ですが、教育研究目標2の達成度の評価指標としては科目開講の成果を評価することが期待されず。(B)
- ・進捗評価の項目に、「2018年度開講に向け、担当者(案)を作成すべく、授業担当者へ打診を行った。」とありますが、これは特に「進捗状況」を示すものではなく、通常の教務事項と考えられます。単に担当者を決めるだけでなく、科目設置の理由付けなどの説明を行ったうえでの担当案の作成が求められます。(C)
- ・開講が進んでいるようですので、この教育研究目標についてここで一度再検討が行われることが期待されます。(D)
- ・目標に向けて今後の進捗が期待されます。(G)
- ・当初の計画よりも先んじて取組みが進められていることが窺えます。(I)
- ・科目開講に向けた準備が順調に進んでいます。(J)

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)

修士論文を執筆できる能力の育成 [前期課程]

(狙い内容)

神学における専門研究者の育成とキリスト教会やキリスト教主義学校教育、社会福祉や社会活動などの領域において指導的な役割を果たすことができる、高度な専門的知識を具えた職業人を育成する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

『修士論文優秀賞』を設置する。

2. 達成度評価

評価指標	『修士論文優秀賞』の設置状況	評価尺度	A: 『修士論文優秀賞』設置 B: 『修士論文優秀賞』原案確定 C: 『修士論文優秀賞』原案検討 D: 未実施
-------------	----------------	-------------	--

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		D 未実施	C 原案について検討開始 した。	B	A	A	A	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	D	C	実績 B				
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	未実施	原案について検討開始 した。		原案について前年 度に引き続き検討し た。			

【2017年度の進捗状況について】

2018年度実施に向け『優秀論文賞』の設置が承認された。詳細原案の確定はされていないものの実施時期など、より詳細な検討が開始されている。

2017年度 of 取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → **はい**・いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・「修士論文を執筆できる能力の育成」という目標と「優秀賞の設置」という施策の関連性・有効性についての説明が望まれます。(A)
- ・行動計画として賞の設置は適切ですが、賞の設置が高度な専門知識を具えた職業人の育成につながるのかの検討が必要です。他の行動計画の立案も期待されます。(B)
- ・修士論文優秀賞について、発足時期が示されて具体化に向けて動き出していることは評価できます。各年度の母数(修士論文の総提出数)が気になるころではありますが、「顕彰」以外にどのような方法で効果をあげるかが今後の課題だと考えられます。(C)
- ・設置後の内容について改めて検討が期待されます。(D)
- ・目標に向けて今後の進展が期待されます。(G)
- ・今後は修士論文優秀賞の設置による成果等について、新たな目標を設定することが期待されます。(H)
- ・順調に取組が進められていることが窺えます。(I)
- ・昨年度のコメントにもあるように、賞の設置は手段であり、めざすべくは受賞に値する論文が執筆されることであり、そのための指導や対策について検討することが望まれます。(J)

【A票:教育研究目標4】

(タイトル)
博士論文を執筆できる能力の修得 [後期課程]

(狙い内容)
神学における高度な専門研究者を効果的に育成するべく、学位論文の執筆にむけて指導する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

年度末等のしかるべき時期に研究発表の場を設ける。

2. 達成度評価

評価指標	後期課程の学生による『研究発表会(仮称)』の開催に向けた検討状況	評価尺度	A: 『研究発表会』設置 B: 『研究発表会』原案確定 C: 『研究発表会』原案検討 D: 未実施
-------------	----------------------------------	-------------	--

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		D 開催について検討を 行った。	C 原案について検討開始 した。	B	A	A	A	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	D	C	実績 A				
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	開催について検討を 行った。	原案について検討開始 した。		研究発表会を設置 し、実施時期などの 詳細を検討した。			

【2017年度の進捗状況について】

2018年度実施に向け『研究発表会』の設置が承認された。詳細原案の確定はされていないものの実施時期など、より詳細な検討が開始されている。

2017年度 of 取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい ・ いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・「博士論文を執筆できる能力の修得」という目標と「研究発表会の開催」という施策の関連性・有効性についての説明が望まれます。(A)
- ・研究発表会の設置は適切ですが、教育研究目標の評価指標としては学位取得者数など、当該行動計画による成果を評価することが期待されま
す。(B)
- ・「研究発表会」の内容について、もう少し詳しいことが知りたいです。前年にも、これまでに「研究発表会」のようなものがなかったのか、というコメン
トがありましたが、後期課程において、通常考えられる「学会」等での発表機会に加えて、このような「研究発表会」を行うことの意味付けをもう少し
検討する必要があると思います。(C)
- ・発表会の開催が期待されます。(D)
- ・順調に推移しており、評価できます。(F)
- ・目標に向けて今後の進展が期待されます。(G)
- ・今後は「研究発表会(仮称)」の開催による成果等について、新たな目標を設定することが期待されます。(H)
- ・順調に取組が進められていることが窺えます。(I)
- ・研究発表会の開催は手段であり、めざすべくはそこで発表される論文が執筆されることであり、そのための指導や対策について検討することが望
まれます。(J)